

2 長期目標の達成に向けて克服すべき重要課題と適応すべき社会潮流

まちづくりの長期目標である「命への共感に満ちたまち」を実現するためには、阻害要因となる重要課題を克服するとともに、大きな社会潮流に着実に適応していくことが不可欠です。克服又は適応すべき主な課題や社会潮流には、次のようなものが考えられます。

(1) 本格的な人口減少社会の到来

我が国の総人口は、平成 20 年（2008 年）の 1 億 2,808 万人をピークに減少しており、2060 年には 8,674 万人となる見込みで、本格的な人口減少社会を迎えています。

本市においても、豊岡市人口ビジョンでは、2010 年に 85,592 人であった人口が、2030 年に 67,997 人、2060 年に 38,044 人まで減少すると予測しています。

少子高齢化とともに進む人口減少は、地域コミュニティの崩壊、労働力の減少、経済活動の縮小や地域活力の低下、財政の危機など、さまざまな問題を引き起こし、まちの存続をも脅かす深刻な課題となっています。

私たちは、本市における人口減少の最大の要因である若者層の大幅な転出超過及び未婚率の上昇に目を向け、対策を講じて人口減少トレンド^{※1}を緩和するとともに、それでもなお進む人口減少下にあってもまちの活力を維持するため、市の地方創生総合戦略^{※2}を果敢に進めていく必要があります。

(2) 災害の大規模化と頻発化

我が国では、平成 23 年（2011 年）の東日本大震災、平成 28 年（2016 年）の熊本地震など大規模地震が相次ぎ、近い将来には、南海トラフ地震や首都直下地震などの巨大地震の発生が予想されています。

本市においても、最大震度 6 強の「日本海沿岸地震」の発生が想定されています。

また、近年、大規模な水害や土砂災害などが増加する傾向にあります。

災害による被害を最小限に抑えるためには、行政、地域、市民が協力して、ハード整備のみならず、自然をより深く理解し、危険情報の収集・分析・伝達能力を向上させるなどのソフト面の充実を図り、地域防災力を強化する必要があります。

(3) 地球環境問題の深刻化

地球温暖化の進行により、気温や海水面の上昇をはじめ、異常気象の発生、生態系や農作物への影響など、深刻な事態をもたらすことが予測されています。生物多様性も危機に直面しています。

私たちは、再生可能エネルギーの活用、省資源・省エネルギー化、生物多様性の保全、自然環境に適合したライフスタイルの確立などを積極的に進め、持続可能な社会を構築する必要があります。

※1 人口減少トレンド…人口減少の長期的さう勢。

※2 地方創生総合戦略…人口減少対策に関する戦略。

(4) グローバル化のさらなる進展

交通・情報通信ネットワークの発展と普及により、人・モノ・カネ・情報などの移動が地球規模で活発化し、経済活動にとどまらず、社会活動や市民生活など幅広い分野でグローバル化が急速に進んでいます。

グローバル化により、巨大なマーケットが出現し、競争が激化するとともに世界の等質化が進み、逆にローカルであること、地域固有であることが魅力として輝く可能性が出てきました。

また、インターネットをはじめとする ICT(情報通信技術)の発達によって、世界中の人々がダイレクトに結ばれることが可能になってきました。

こうした中で、地域経済の活力をどのように維持・向上させていくのか、国籍・民族・宗教・文化などを異にする人々との共生をどのように実現していくのか、特に多様性の渦の中で生きていくことになる子どもたちをどのように育てていくのかなど、さまざまな対応が求められています。

(5) AI(人工知能)などの台頭による社会構造と人間の役割の劇的変化

ICTの目覚ましい発展と普及は、私たちの生活を急速に変えつつあります。さらに、AIやロボットなどのさまざまな分野での導入は、人口減少下における労働力不足の改善、利便性・快適性や生産性の飛躍的な向上をもたらすことが期待されています。

その反面、AIなどの台頭は、社会・経済の中で人間の果たすべき役割を急速かつ劇的に変化させ、経済効率上「人を必要としない職種」を生み出し、多くの人々が慣れ親しんだ仕事を失うことによる疎外感に苦しむ可能性もはらんでいます。

AIなどと共存し、人間にしか成し得ない役割を生かし、一人一人がかけがえのない存在として尊重される社会のあり方を探り、実現していくことが求められています。